

昭和16年7月1日（火）

十時頃より乳貰ひに、余行く。三時の分はミワさん、六時よりの分は余行く。坊やをして入浴せしむ。野口氏、午前七時来。伊勢さん同伴。夜は余行く。午後四時過ぎ野口氏帰る。対手、言を左右にして遂に出さず、空しく皈ると。井上氏、朝来局。直に相談所に遣る。十時頃帰局。執務せしめんとしたるが、明日より服務すべしとて帰る。辞令のみ交付す。野口氏の欠損金、半金支出に腹を決す。

昭和16年7月2日（水）

晴れ、蒸し暑し。此の朝、野口氏に弁償金の半分交付せり。井上氏臨局。為替係の補助とし見習いせしむ。昨日より朝五時、坊やを神詣でにミワさん連行。隣組、戸外に出て六時よりのラジオ体操をなす。変われば変わる世の中と思はれたり。今日まで朝六時二十五分前、表街路を掃き居たるも、此の時刻は全隣組、皆起床、鵜の目鷹の目の態勢中を掃除することは、妥当ならざる感あり。明日より五時前後、家屋内の掃除を打ち切り、街路に出づべしと思料。莫産を引き下ろして敷く。坊やは今日、野口氏に入浴依頼す。

昭和16年7月3日（木）

朝来快晴、多少降雨。朝七時及び夜分は余、切手類請求後三時はミワさん。夜は余行き、風呂にも五時半に来いと云ふから、抱きて藤田湯に行きしも、来たり居らず。自宅に行きたるに夕食中、次いで風呂に行き、坊やを入れたる由。花莫産、其の家あり。求め来らる。婆々さん来たり、色々話あり。夜、余帰宅後、其の花莫産を求め

に態々行かる。値段不明の由にて販らる。

昭和16年7月4日（金）

坊や三時より起き、容易に安眠せず。例に依り、五時よりミワさんに連れられ、教会かかり行く。此日、牛乳六時配達あり。六時三十分調合、坊やに与ふ。朝の間晴れ、十時頃より曇り、降雨。午後は豪雨驟雨態となる。午後一二回共、傘をさしかけて二人にて出掛く。十時ミワさん出発の際、先方より婆々さんと共に勝恵ちゃん来たり。坊やに乳呑まし、ミワさん草餅求め来たり。馳走さる。四時豪雨、和傘持ち行く。数回乳呑む。七時半、行水使はす。其の前、乳を鼻と口より吐き出し、呼吸困難となり眼を白黒さす。ミワさん周章、神様の名を呼び祷（いの）らる。母堂も気を揉まる。間もなく落ち着く。湯を使はせる頃は、頗る快く、湯より上がると睡る。八時に行く頃、熟睡碌々飲まず。莫産七円のを求む。余七時頃、二十分間前後座敷にて眠る。十一時まで仕事をして寢床。坊や夜半に空腹を感じ、泣かねばよいかと案じらる。昨、甚十郎氏より書留にて拾円送金あり。本日、成子さんより五円送金し来る。

昭和16年7月5日（土）

牛乳六時頃配達あり。七時前坊やに飲ます。暑熱強し。莫産持参さる。余忙しく、挨拶に出でざりき。上がらずして其の儘販る。赤坊異状なし。

昭和16年7月6日（日）

朝、牛乳配達七時を過ぎて来たらず。坊や頗る機嫌斜め。午後四時半、夕食を早く済まして、母堂を連れ京町に買

物に行くこととす。其の前、野口さんと湯に行き、五時頃より外出。京町角にて横田重利氏（乳を貰ふて居る家）妻女に逢ふ。帽子求めに来ると。母堂、五円成子さんより貰ひし分を出資、坊やの為に玩具類を求め下さる。チャンチャン52と90と二着、腹かけ50を求め、次いで風鈴1、10、及びガラガラを求めたり。坊や腹減り泣く。八時を過ぎ、急ぎ乳貰ひに行く。恰度、横田氏方も一同風呂行き。ラジオ独り物言ふも誰も居らず。再び外出、湯屋の近所まで行く。八時半頃まで頂く。此日三回共、余行く。野口氏に坊やを入れて貰ふ際は、湯銭当方にて支払ふ。仕事は多くあるも出局せざりし。達坊には恵まれたり。午後一時、理髪店に達坊連れ行く。手間取るものらし。一旦帰り、四時乳貰ひに行き、其の販りがけ理髪し貰ふ。余も同断。

昭和16年7月7日（月）

牛乳配達遅し。切手請求、午後受取に行き、葉書二千枚持来る。東吉富局分なり、戻しに行く。雨降り初む。此の頃より、雷鳴の驟雨性降雨。霽れては降り、降りては霽れる。最初の二回ミワさん、後の八時よりの分は、余連れ行く。湯を遣わす。八時に連れたる際は、雨降り居らず。九時頃より復た降り出す。横田氏、合河に浪曲長講二時間。午後一時三十分出発。五時二十分販宅。達坊、四時に乳を飲み止み泣く。随って再び乳を呉れ、一時間余飲みたる由。驟雨、和傘持ち迎えに行く。余、睡くして我慢出来ず。坊やと蚊帳を同じふして半時間寝る。坊やを湯を遣りてから、熟睡起きず。乳をねぶりつつ碌々飲まず。其の儘販宅。眠り続く。安眠し得るや疑問と信ぜしに、存外夜は安眠し得たり。日支事変記念日。

昭和16年7月8日（火）

朝来雷雨。六時三十分、此日三回行き、初回祖父楽し相に、眠り居る坊やを連れて去らる。雨甚だし。雨は夜になって初めて霽れる。朝六時、金光様に御詣りに坊を連れ行きたるを、和傘持って迎ひに行き、電話局の前近くに会す。雨復た降り出す。夜は七時半出掛けたるが、来客あり。入浴帰宅し、居らず少時俟つ。森田野口両氏も、湯に行き一緒になりたるらし。坊や相当空腹なるらし。夜も飲みつつ睡る。碌々飲まぬ如し。併し、睡り続けにて朝に至る。今朝、牛乳八時頃配達。別に粉ミルクを与ひ、九時半牛乳与ふ。

昭和16年7月9日（水）

朝六時二十分、牛乳配達。母堂、昨朝と今朝五時起床。湯を沸かし下さる。粉ミルク与ひざりし。初め二回はミワさん、夜は余、乳貰ひに行く。和傘三円持参。午後八時隣組集会ミワさん行かる。午前中、雨時々降る。午後は概ね曇天にて終わる。昨手当分配す。坊や午後二時半、野口氏に托し風呂に入れて貰ふ。昨は行水す。頃日一日として休まず洗ってやる。多少肥えたる由。毎日見る余にも、それと知り得るまでになる。時々差出し大小便せしむ。今日も二回大便す。何れも差出してのことなり。

昭和16年7月10日（木）

午前四時頃より豪雨。六時よりの街頭ラジオ体操は、降雨と電燈消滅の為、休止となる。貯金過払い事故の為、豊田町に行く。近藤商店は国民学校近所と云ふ。道路舗装に大分より出張の道路技手らし。而して該当の人物は

見当たらず。一方保線区に其の人ありとのこと。次いで資金受取、及び切手買受け、金払込みに行く。午後分凡て、余、護（まも）りしつ連れて行く。坊や風邪発熱。横田乳母、体温計を出し股の間に挿入。37, 1を計る。帰宅して計る、37, 35。多少心配せり。明日も猶、斯くの如き経過を辿れば、医かかり行くつもり。

昭和16年7月11日（金）

終日降雨、歇んだり降ったり。午後切手請求。朝、横田氏迎えに来る。六時半頃、牛乳配達あり。坊やに与ひて間もなきこととて、折角来て下さったが謝して遣らざりし。此日は三回共、余行く、剰（あまつさ）え、島原先生へ赤坊の検査をして貰ふ。三時に来たれと云はる。即ち二時半横田氏に行き、飯途相談所に行き、数人の患者俟ち居るも頓着せず診て貰ふ。砂糖の供給切符、交付方の件なり。行水遣わす。坊やの発熱自然消滅せり。人工栄養児には砂糖の配給あり。其の証明は、医師又は産婆となり居る故なり。

昭和16年7月12日（土）

十時より耶馬溪倶楽部にて局長会。市内至る処、竹の先を五色の紙を吊し、国旗交叉し召集令状来を察知さる。朝七時、坊やを連れて乳呑みに行き、神様には連れられざりし。幾分熱ありと見、用心の為なり。髭剃り九時前、耶馬溪倶楽部行き。部会長さんの話、今回七拾年以上、及び常務を執り居らぬ局長は、退職を命ぜらるることになれりと。豊後町長野さんは七十八歳、郡内の長老なり。第一着に白羽の矢が中りしと。大貞局長と別室にて咄す。井上ふで子の件なり。学校よりの通知は何れも芳しから

ず。現金など当たらせらるる人物に非ずとの評なり。余、夜、坊やの為に二三時間の睡りを取るのみにて、一般に不足し、日誌も夢中に書くこと多し。此日午後七時半、坊やを連れて乳呑ませに行く。此の間、竹屋武石干夫氏の弟に嫁を娶り、其の披露式を挙行に付き、ミワさんに行って貰ふ。此の日曇り、冷氣初秋の季節とまがふべし。十時頃ミワさん帰り、風呂敷、蒲鉾、菓子折、其の他、膳部等持ち搬び来る。籠にパイナップル、バナナ、水蜜桃を盛りしものは、明朝、横田氏勝恵ちゃん百日の祝ひに取り行くこととなせり。十一時寢床。

昭和16年7月13日（日）

冷氣続く。今朝、坊や神詣でに連れ行かる。此の間、掃除す。近所街路に砂利敷き。剩え、六時より戸外にてラジオ体操を遣り初めてより、掃除も出来なくなり、雨降りも手伝って一層、其の嫌いを拡大にす。今朝、局隅のみ掃除す。午前中快晴。午後も時々曇るも、概ね晴れたり。文夫より速達葉書。十六日、久留米に入営令状来ると。米倉八助氏よりも同様のこと、書面到着に付き（昨日夕刻）返信書く。此日も七時、十時半、三時半の三回ミワさん行き、夜のみ、余連れ行く。坊やの蒲団母堂作成、木綿300匁求む。

昭和16年7月14日（月）

朝五時神様へ連れられ、七時、十時半、二時半の三回ミワさん、夜は余行く。但し二時半、横田嫁御来宅。乳を与ひて去らる。切手請求はミワさん、貞永には出納召吏独自の意向にて行く。坊や寝つかず。都度八ヶ間敷く、夜抱きは闇無近所の原（一向に不明、夢中で書く）。此

日より三日間、龍王閣無神社祭典、町内山飾り多数出動。余、坊や連れ市内を一巡す。序でに乳呑みに連行。

昭和16年7月15日（火）

曇天。朝、雨降る。勝恵ちゃんの百ヶ日、写真撮りに行く云ふ。父親の大工さん大里より帰宅。此の夜は、おも湯の代わりに御神米を少々水に漬け置き、火を起こして煮る手配す。夕方、湯に坊やを野口さん連行。ミワさん方も行かる。留守の間、火を起こさんと百方すれども消ゆ。野口さん、連れて戻りし坊やが泣き出したる様子に、其の俣坊やを連れ、横田氏かかり行く。ミワさん後より来られ、山見に行かるる由。手間取らせて気の毒なりと詫びたり。帰宅。母堂火を起こして下さる。即、乳を作り十時坊やに与ふ。夢中で飲み乾す。ぐっすり寝込む。

昭和16年7月16日（水）

陽光を仰ぐ。寧ろ久し振りなり。多数襦袢洗濯す。此日坊やの百日目、頭付き鮮魚、赤飯、其の他馳走を作り、二階の人々、伊勢さんにも振舞ふ。井上さん早く飯る（五時前）。夕方の分、余連れ立つ。坊やに行水遣はす。昨夜も十一時過ぎに寝床。母堂等湯に行かれ、坊やを野口さん連れ行かる。此夜十一時まで睡らず。十時に重湯を吞ましたるも、量少なき為か、小便のみ多く出て眠らぬのには当惑せり。

昭和16年7月17日（木）

予報は雨、時に降るらしきに、午後より快晴となり、山車多数練り廻す。午前中、賢助さんと長男某、及び良助の三人、巖案内し来る。良助、技術者として召集せられ、

明後日熊本集合の由。夜九時二十五分終列にて、小倉經由、熊本着。明朝五時過ぎに決定。午後九時、駅に至る。野口氏盛装。四時頃より北浦町に至り、良助出発を見送る。愛子、賢助氏の長男、及び巖と来たり。余とミワさんに行く。餞別参円遣る。入場券売らぬ。遺（さすが）に姉弟の情は、偶に見て居ても情味掬（きく）すべきものあり。坊や七時半頃、湯を浴びせやる。良く眠る。十時重湯を与ふ。一時頃まで熟睡。襦袢を換えたるも、珍しく安眠せり。切手受取に行く。終日、ミワさん乳貰ひに行く。

昭和16年7月18日（金）

午前中晴れ、午後曇り。此日もミワさん、全部乳貰ひに行って下さる。おしめ洗濯頗る多し。幸に予報に反し、雨降らず。襦袢の為には幸福。貢氏に令状来たり、漸く調査に着手せる由。今日も甚十郎氏より来翰。調査中とて、応召し得るや否やは不明。昨酒券、是れは祇園祭に対するもの。一升配布180。余、一合余り神酒として頂く。他は向かいの靴屋、上本氏に頒与せり。四時より野口さん巖方に行かる。昨和服、今日洋装。通信書記官、従四位勲四等、平塚運吉さん。7月12日附け、逓信監察官を兼任、高等官二号に昇進。14日依願免、本官並びに兼官。相前後して退職せし人々多し。野口さん巖方より販らず。伊勢さん泊まる。

昭和16年7月19日（土）

曇天。午後より降雨せしも、甚だしからず。短時間にて歇む。終日ミワさん、赤坊連れて行かる。頃日、毎日行水遣わす。平塚様へ左記の通り、電報せり80。

功成り名遂げ爰に退官せらる。顧みて感無量。
謹みて永年の御眷顧を拝謝し、偏に御健康を禱る。

明日大掃除に付き、出局方慫慂せり。頃日、九時頃より重湯の仕度をなし、十時に与ふ。習慣となれり。七時半行水を遣わし、九時重湯に粉ミルクを加味して、十時やる。昨に懲り、少々甘味を持たす。

昭和16年7月20日（日）

朝来降雨、五時頃歇む。六時頃再び降り出し、余迎ひに行く。横田氏方に休ませ居れり。七時頃歇む。朝の間、襦袢火に乾かし貰ふ。天候午後より恢復せり。此日、土用入り。坊やは凡てミワさん連れて行かる。局員皆来局に付き、大掃除して貰ふ。四銭の饅頭四つ、すし全部に馳走す。四名共、次いで活動に行かれ、五時頃井上氏帰宅。九時頃より寢床。十時半、坊やに乳呉る。

昭和16年7月21日（月）

朝曇り。昼を剥ぎ、醤油土蔵に並べ乾かす。次第に霽れ、十時頃より快晴。下敷きに新聞紙を貼付、二時頃までに全部完結。検査員来たり、終了の札を置いて行く。夕方より曇天。今日より土用入り。坊や肥えたりとの評に喜ぶ。今日も一回も、乳呉れに余行かず。坊や砂糖一斤貰ひ、半分以上、横田に遣る。

昭和16年7月22日（火）

朝曇り、雨模様。午後より多少霽れたるも、曇天続き、台風小笠原を経て東京近郊に上がり、山形地方を経て海に出でたる如し。東京地方暴風雨、床下浸水夥し。東海

道線、不通箇所あり。賢助さん父子、午後五時帰途に就き、余の宅を訪はる。余ラジオに聴き耳立て、音なう者ありとも覚えざりし。余と野口さんミワさん駅に送る。巖、和博送り、ミワさん坊やを連れて乳貰ひ出掛けられ、留守中。折柄貨物列車の侵入し来たり。向かい側を見ること不能。乃ち販る。環状線にて切符購入し来れる由。

昭和16年7月23日（水）

朝霧、天候の恢復を懸念されしも快晴となる。夕方、雷鳴と共に降雨。幾もなく歇む。夕方のみ、坊やを連れ乳貰ひに行く。次いで、湯に坊やを野口さんに頼み、連れらる。夕、湯沸り居るので行水を遣ふ。此朝、坊やの写真出来、福岡へ三枚送る。坊やの風呂行きを見計らひ、迎えに行き、連れて販り寝かす。切手請求より受取まで、ミワさん自らす。

昭和16年7月24日（木）

五時三十分、街路掃除。靴屋の主人、早く戸を開き、新聞を閲る余に助力、掃除さる。夜降雨。坊やを連れ行く。朝七時半、ミワさん販らず。多少心配になり、迎えに出掛け、島澤酒屋の前にて会す。速達葉書を書く間、待ち居たる由。朝飯八時を過ぐ。勝恵嬢の写真出来、実物よりよく撮れたり。九時頃より床に入る。六時分、乳呑み不足と見ゆ。販宅後、眼を覚まして泣く。仍って牛乳五勺近く与ふ。満腹して漸く安堵せしか睡る。ミワさん、十一時半まで切手請求等、手配さる。十一時より、粉抹米を越して糊状となしたるものを与ふ。

昭和16年7月25日（金）

朝来降雨。それでもミワさん神様に連れて行かる。十時、二時共に余行き、六時の分に限りミワさん代行さる。此の時、雨歇みたり。襦袢、母堂火にて乾かし居らる。

昭和16年7月26日（土）

午前中晴れ、午後より曇り。七時朝食前、八時を過ぐるも眠らず。余迎えに行く。既に早く眠れる旨話さる。復た引返せば、金物屋前にて追付く。途中、下駄屋に立寄り緒を求め居らる。八時半朝食。十時半出勤。給料四時頃到着。昇給後、第一回給料とて貰ひ力あり、遣り力あり。坊やの側にミワさん居り、十一時乳遣る。此日午前中、乳不足にて、坊や泣くこと甚だし。駅に駆け付け牛乳一瓶12求め、半分遣り、他の半分は夜、配達を受けし乳を入れ十一時に遣る。煉炭、午後より火を移し、夜明けまで保たしむ。

昭和16年7月27日（日）

朝来降雨。おしめ乾かぬを遺憾と思ふ。十時半、勝恵ちゃんの母来宅。哺乳す。両親、昨日三時頃、合河の先の部落に二泊興行され、昨夜より不在。六時半ミワさん坊や連れ行かれたる時、広津に（製薬会社建設）工事場に働く主人公眠り、夕飯の膳に向かふ際とて、其の俣連れ眠りしを、電燈故障の為、点火せざりしを機に、余連れ行きたるも、蚊軍の襲来甚だしく家の中に居るべからず、戸外に立ちつづけにて坊や哺乳す。二拾分。時にして余受取り、八時半湯を遣わす。途中点火す。故に昨日は局の仕事を何も遣らざりし。今日午後より、昨日の電報及び一報?等点検す。九水より電話、昨不点燈に対

する詫び状。葉書五百五十通を駅前局ポストに入れたるを、今日の配達に間に合わせたしとて、措置方尋ねらる。一応余より主事さんに電話せしに、日曜は配達一回にて、明朝の結束より途なしとあり。其の旨、電話し置きたり。税務署より局舎料の査定方に付き照会あり。知り得たる点通知せり。菅家原道子氏へ二週間ぶりにて返事出す。野口さん等、先日伊勢さんより貰ふた米利堅（メリケン）粉を基礎に、蒸しパンを午後より作らる。余の家にも五つ六つ下さる。猶、勝恵ちゃん母に、饅頭二十錢程持たせて遣らる。六時十分、坊や熟睡に入らんとする際、先方の都合上、起こして連れて行って貰ふ。午後より雨歇み、少照を得ておしめ皆乾けり。火に乾かす都度焦がし、次第に数を減ずる。心細し。夫れに付けても、陽光の恩恵を感謝せざるを得ぬ。難有し難有しと云ふや、切なり。一昨道子の葉書、坊やは笑わぬか、額は狭し、口は何故開けて居るか、存外肥えたようなるも可愛いさ劣る等々質問あり。実物よりは写真は悪し。近頃は母堂もミワさんも坊やを手放すことに難色あり。小用を気根良くさせても出ぬ時あり。一度おしめを濡らせば、身体冷えて小用近くなり續繁（ひんぱん）濡らす。おしめを汚させぬこと頗る面倒なり。坊やは笑うも、無闇に愛嬌笑ひせず。兎もすれば、暴れ出して手を負ひぬことあり。腹減れば容易に睡らず。乳飲みて間もなく睡入る。三十分間も飲めば満腹して上機嫌なり。十分二十分にては甚だ不機嫌。其の癖、睡入りて満足に飲まず。少時放任、仰向けにして眼を覚まさせ、再び哺乳すれば稍満腹す。便は何日も軟らかにして水分多し。母乳前には堅き便を漏らしたるも、兎も角、余が瘡せし丈け坊やが肥えたりと思へば、嬉し。

夜おしめ乾き、珍しくも夜を徹して乾かしたるものなし。坊や八時三十分湯を遣わし胸を暖め、頭を冷やして団扇にてあおぎたるに、快く睡る。本日定員一分増し、三人七分となり、四円四拾錢増額さる。

昭和16年7月28日（月）

午前五時四十五分、表を掃除すべく出掛けしに、上本氏今朝は両側の溝渠（こうきょ）を浚渫（しゅんせつ）することとせりと。余乃ち襯衣一枚となり、長谷川氏上本氏等、専ら人造石の蔽い蓋を鉄槓（てこ）にて撤去。余等は十能にて泥土を極（きわま）へ、臙（やが）て両氏は肥料として、堆積の泥土を裏の畑に負荷搬出せり。朝、仕事多く各部屋の掃除、神仏の花、櫛の水換え、襦袢の洗濯等、此等は自然遅延の姿となり、朝飯を約一時間遅れ、八時を過ぎたり。天気良く、乾し物、悉く燦（きらめ）きたり。

昭和16年7月29日（火）

曇り勝ち、降雨あらん模様。十時、横田氏養女来宅。ミワさん焼き饅頭求め来らる。販りに土産として遣わされしこと、前例を踏襲す。昨夜も、二時より襦袢を取換ふる際、泣く。朝残りの牛乳に砂糖を入れ、瓶に移し飲ます。湯沸き居る。タオルを浸して腹部を温め遣る。善き例は之を繰り返すこと肝要と思料す。午後二時より市役所会議室に至る。十数名来局致し、原署長議長席に就き、中津市が献納名四百は献納したれと色々協議して、四時近く販る。向かへの上本氏を訪ね、会議の案件を咄し助力を請ふ。

昭和16年7月30日（水）

晴れたり曇ったり。横田氏、夜半三時より夜を徹して、五時八屋着。汽車は七時と聞き、再び徒歩を続け六時到着。何分にも蚤多く安眠し得ず。病気を口実として出立せしものなりと。七時に坊やを連れ行きしときは、横田氏、裏の田を見舞ひつつありし。九時五十分頃、第二回目を運ぶ際、謝礼15円持参さる。横田氏狸睡り、婦人受取り呉ると。午後二時、三度目に行きしときは、一応形式に戻し来る。ミワさん強いて受取方慫慂す。乃ち受納さると。是れにて一日重荷を下ろしたる観あり。四時、風呂行き。五時帰宅。坊や機嫌良し。湯は一釜掛け置かる。坊やに遣わすので、我が方の自由。

昭和16年7月31日（木）

曇り、晴れ間もあり。ミワさん寝冷えか、朝来頗る倦怠を思はしむと。果たして数回嘔吐しだし、ミワさん九時出勤、本局に赴かる。朝、坊や連れ八時帰宅。其の際異状を訴ふ。今朝四時より坊やを看る。睡眠不足に起因すとのみ思ひしに、寝冷えに起因するものの如し。37, 5発熱。九時五十分、坊やを連れ行かんとするとき、横田氏乳母来局。弟の熊逋講に居る者に休暇なき為、運動襦衣等送って遣りしなりと。序でに乳呉れ、例に依り菓子求め来たり、持たせて遣る。二時及び六時の分は、余、乳貰ひに坊やを連る。